

令和2年5月19日

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会 御中

枚方市議会議員 西田 政充



平素はご指導・ご鞭撻を賜り誠にありがとうございます。

本年4月30日付けで貴会より頂戴いたしました『公開質問書（枚方市駅周辺再整備計画について）』に対しまして、下記の通りご回答申し上げます。

記

1. 市議会議員への枚方市からの説明について

- ① 「市議会、市議会議員はその計画づくりや決定過程へ十分関与されたと思われませんか？」というご質問に対してですが、この間、市からは建設環境委員協議会（年に複数回開催）や全員協議会（平成30年9月12日、平成30年12月6日、令和元年12月5日に開催）の中で枚方市駅周辺再整備事業に関する報告があり、その中において各議員が質問や意見・要望を述べることなどにより、市議会としての職責は果たしているものと考えています。ただし、私は本事業に関して総合的かつ継続的に調査・検討し、提言することができる『特別委員会』の設置が必要と考えており、その実現に向けて平成26年から平成30年にかけて5年間連続で毎年、その時々議長に対して「枚方市駅周辺再整備事業に関する特別委員会設置の要望書」を所属会派として提出してきたところです。（残念ながら、未だ特別委員会設置の実現には至っておりません。）
- ② 「③街区の組合設立に向けた縦覧」に関するご質問に対してですが、昨年12月5日に開催された「全員協議会」において、③街区のまちづくりに関する「進捗状況」及び「今後の予定」の報告がありましたし、縦覧期間は「都市再開発法 第16条 第1項」で“二週間”と定められているため、今回の縦覧が令和2年1月31日（金）から令和2年2月13日（木）までの二週間であったことは適切であったと考えています。ただし、縦覧日時が土曜日、日曜日及び休日を除く平日のみの午前9時か

ら午後5時30分までであったことや、縦覧場所が枚方市役所の市駅周辺等活性化推進部内のみであったことは、もっと縦覧しやすい環境にする必要があると感じました。

- ③ 「税金の使われ方のチェック」に関するご質問に対してですが、昨年2月20日に開催された総務委員協議会におきまして、③街区の市街地再開発事業に係る概算事業費は約395億円、そのうち市負担額は約75億円であり、その市負担額約75億円の内訳は、市街地再開発補助金が約25億円、公共施設管理者負担金が約21億円、そして行政サービスの再編にかかる経費が約29億円になるとの報告がありました。今後も引き続き、③街区における再開発事業の進捗状況を注視しながら、市民の皆様のご貴重な税金が有効かつ適切に活用される事業となるよう取り組んでまいります。

2. 市役所の建て替えについて

- ① 「市民会館大ホール跡地ならば、早期に市庁舎建て替え工事が進められると思われまます。この件に関してどのように考えられるのか、見解をお聞かせください。」というご質問に対してですが、確かに、市民会館大ホール跡地であれば、確実に早期かつ比較的低コストで新庁舎建て替えが実現できるものと思います。ただし、私は場所がどこであろうと「効率・効果的な税金の使われ方」や「まちの活性化の推進」の実現のため、新庁舎の建設は庁舎単体ではなく、公的施設や民間施設との『合築』が不可欠であると考えております。なお、私が新庁舎との合築を希望する対象施設は、公的施設なら「枚方税務署」や「中央図書館」（車塚からの移転）、「子ども科学館」（私が以前からその設置を要望している施設）などで、民間施設なら「都市型ホテル」などです。
- ② 「③街区で計画されているタワーマンション」に関するご質問に対してですが、この③街区で計画されているタワーマンションに関しては民間による事業でありますので、申し訳ございませんがコメントは控えさせていただきます。

3. 道路計画について

- ① 「③街区の天野川左岸に沿った幅員 10mの新設外周道路」に関してですが、ご質問の文章内にある「浸水時にはとても危険な道路になる」や「(騒音・排気ガスなどにより) 近隣の民家への影響は大きい」といったことは、枚方市が進めている『安全・安心で住みよいまちづくり』に逆行することになってしまいますので、今後、市の担当部局からヒアリングを行うなど、新設外周道路の整備計画について調査してまいります。
- ② 「バスの運行計画も含め道路計画の見直しが必要と思われます。見解をお示してください。」というご質問に対してですが、大変申し訳ございませんが、私自身、③街区の周辺（新町）エリアの交通状況を十分に把握できておりませんので明確にお答えすることができません。まずは交通の現状把握に努めていきたいと思っております。
- ③ 「府道京都守口線の道路事情や新町、川原町等の生活道路への影響」に関するご質問に対してですが、まちの開発や活性化が進むと必ず交通量は増加いたしますので、その対策をしっかりと講じるよう、市や府に対して働きかけてまいります。

4. ③街区について

- ① ご質問の文章内にある「再整備事業において公有地が含まれると、民間業者の“儲け”が生み出しやすい仕組みですので、大阪府住宅供給公社の団地も含めた一体の再整備事業にしたのではと考えられます。いかががお考えですか？」に対しては、私の想像や憶測ではお答えできませんので、大変申し訳ございませんがコメントは控えさせていただきます。
- ② 「③街区の事業費の内容、“権利床”“保留床”の試算について枚方市から説明はありましたでしょうか？」というご質問に関してですが、枚方市からは、「③街区の事業費の内容」については過去の総務委員協議会や建設環境委員協議会及び全員協議会などで概略の説明はありましたが、

「権利床」や「保留床」の試算については詳細な説明は受けておりません。ただし、市街地再開発事業の仕組みについて市から説明を受けた際、「権利床」と「保留床」についても説明も受けております。ちなみに、私が調べたところによりますと、国土交通省（都市局 市街地整備課）からは、『権利床と保留床の価格設定について』と題して「安定的な事業推進のためには、事業計画を決定又は変更する際（以下、「事業計画策定時」という）において、権利床について、権利者の権利を害することのないよう適切に価格を設定すべきことは当然ながら、保留床についても、市街地再開発事業の事業費を賄うという保留床の性格を踏まえつつ、安定的な事業推進に支障とならないよう適切に価格を設定する必要がある。ここで、事業計画策定時において、保留床の価格見込みを過度に高く設定することは、今後の保留床処分に不確実性を生じさせ、安定的な事業推進に支障をきたすおそれがあることに注意が必要である。」という通達が出ておりますので、こういった点についても考慮しながら、今後の当該事業の進捗状況をチェックしてまいります。

- ③ ご質問の文章内にある「③街区は、枚方市が作ったハザードマップでは2～5m未満の浸水エリアに指定されています。」に関してですが、私も、市が平成30年4月に作成した「枚方市防災マップ」の内容を確認いたしております。それによりますと、洪水ハザードマップでは③街区全体の想定浸水深が「0.5m未満」と「2～5m未満」が混在したかたちとなっており、内水ハザードマップでは市駅北側の想定浸水深が「0.5m未満」となっておりました。従いまして、私は市議会議員の責務として『災害に強い③街区のまちづくり』を推進しなければならないと考えております。

5. 本事業の財政面について

「事業費捻出のため枚方市が提案する項目について、見解をお示してください。」というご質問に対してですが、ご質問の趣旨に沿っているかどうか分かりませんが、事業費を捻出するためには「市有財産（土地や建物）を有効かつ適切に活用すること」や「先の2. の②でお答えしたように、新庁舎は単体ではなく公的施設や民間施設との合築とすること」などが不可欠であると考えております。

6. 本事業の最大の問題点について

本事業の最大の問題点は『時間がかかりすぎていること』だと思っております。枚方市が「枚方市駅周辺再整備ビジョン」を策定した平成25年3月から7年が経過していますが、現在も「枚方市駅周辺再整備基本計画」の策定ができていない状況です。この間、「枚方市駅周辺再整備基本計画」の策定期間の延期が続いておりますが、計画策定に時間がかかりすぎますと「準備のためのコストが増大してしまうこと」や「社会情勢や経済情勢の変化に適応できなくなる危険性があること」及び「民間事業者との再整備に係る歩調が合わなくなってしまうこと」などの多くの問題が生じると考えております。

7. 本事業の見直しについて

私は、過去の議会（最近では令和元年12月議会における一般質問）でも明確に申し上げているとおり、枚方市の将来を考えた場合、JR学研都市線の沿線及び駅（長尾駅、藤阪駅、津田駅）周辺のまちづくりを強力に推し進めるべきであると考えております。人口減少時代の中にあっても実効性のある人口誘導が実現できるのは、JR沿線を初めとする「枚方東部地域のまちづくり」であると私は確信しており、このままでは「二軸化構想」（寝屋川市の京阪本線に加え、星田駅から忍ヶ丘の駅に至る寝屋川公園駅を中心としたJR沿線の広範なグランドデザインを戦略的に描いて人口誘導を図っていかうとする計画）を打ち出されている『寝屋川市』や、北陸新幹線の駅ができる予定の松井山手を中心に、さまざまな商業施設やホテルの開業、戸建て住宅やマンションの開発などのまちづくりが進んでいる『京田辺市』との都市間競争に負けてしまうのではないかと大変危惧いたしております。従いまして、枚方市駅周辺再整備事業に関しては、“見直し”とまでは言いませんが、できるかぎり効率・効果的に推し進めて必要最小限に抑え、予算配分をJR学研都市線の沿線及び駅周辺のまちづくりに、より多く振り当てられるよう、これからも取り組みを進めてまいります。

以上が貴会から頂戴いたしましたご質問に対する私（西田）の回答です。よろしくご査収ください。

このたびのご質問に対して回答することにより、枚方市駅周辺再整備事業に関して改めて詳細に考察することができ、良い機会となりました。

以上